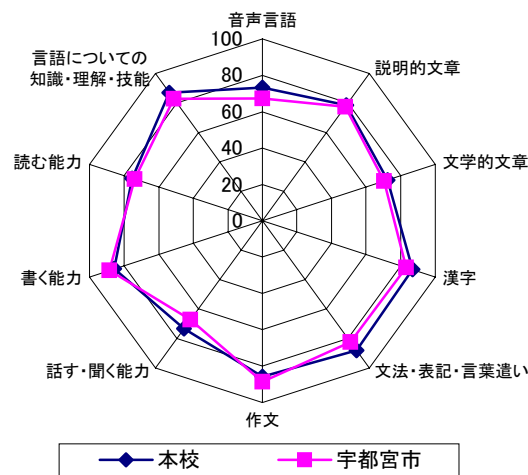


宇都宮市立古里中学校第2学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	音声言語	73.3	67.2
	説明的文章	78.5	77.5
	文学的文章	72.4	70.4
	漢字	86.7	83.1
	文法・表記・言葉遣い	88.1	82.5
	作文	85.8	88.6
観点別	話す・聞く能力	73.3	67.2
	書く能力	85.8	88.6
	読む能力	75.4	73.9
	言語についての知識・理解・技能	87.2	82.9



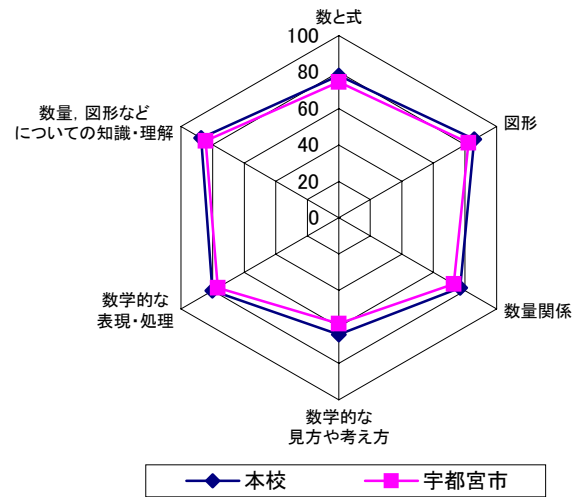
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
音声言語 (73.3%)	宇都宮市と比べると5.9%正解率が上回っている。ただし、正解率は、73.3%であり、他の領域から見るとやや低い。これは、出題内容「インタビューの工夫」の正解率が本校37.3%、宇都宮市28.5%と飛び抜けて低かったためである。問題の難易度のちがいやたった1問での数字なので断定はできないが、課題であることは事実であろう。	今日の教育においてコミュニケーション能力はとても重要である。そこで、授業の中で、いかに話し合いの場面を効果的に取り入れていくべきかを常に意識して授業を行っている。左記の通り宇都宮市の平均を5.9%ほど上回っていることから今後もその方針は継続していく。課題点として指摘したインタビューについては、「インタビューの仕方」について改めて授業の中で取り上げていきたい。
説明的文章 (78.5%)	宇都宮市と比べると1.0%正解率を上回っているが、ほとんど同じである。内容項目でみると、「接続語の補充」が宇都宮市と比べ4.5%低い。文章の前後の内容のつながりが読めないのか、接続詞の知識が足りないためだと思われる。	授業では、文章の構成や展開を考え、書き手のものの見方や考えを捉えるだけでなく、その文章を批評することを取り入れている。批評することを通して論理的思考力を育てたいと考えているからである。今回の結果を受けて文章の展開にさらに力を入れていきたい。
文学的文章 (72.4%)	宇都宮市と比べると2.0%正解率を上回っているが、正解率は72.4%と領域の中では最も低い。本校生徒は読書が好きで、読書量も多いのに不思議である。	文学的な文章の読解では今年から、リーディングストラテジーの手法を取り入れた授業を実践している。出題内容「登場人物の動作の理由」の正解率が低いので、特にこの内容を重点的に手法の中に盛り込んでいきたい。
漢字 (86.7%)	宇都宮市と比べると3.6%正解率を上回っている。また、正解率も86.7%と高い。そのため漢字の読み、書きについての力は、十分定着していると思われる。	漢字の読みや書き取りについては、漢字ノートを定期テストの範囲として設定し、取り組ませて来たが、今後もその方法を継続させていきたい。
文法・表記・言葉遣い (88.1%)	漢字同様、宇都宮市と比べると5.6%正解率を上回っており、正解率も88.1%と高い。そのため文法・表記・言葉遣いといった言語についての力は、十分定着していると思われる。	文法などの言語事項については、資料集やオリジナルのプリントを用いて学習し、ワークの問題演習で確認するといった方法で行っている。特に分かりやすいものだけを選んで身につくよう指導している。今後も継続していきたい。
作文 (85.8%)	宇都宮市と比べると2.8%正解率を下回っている。この調査の中で唯一宇都宮の平均より下である。正解率は85.8%と高いが、課題であることは事実である。	箇条書きや発表原稿など書くことについては、折につけやらせてきた。出来上がった文章をみても書く力が特に身につけていないという実感もないが、今後は作文技術をよりいっそう磨くことを目指した授業を展開していく。

宇都宮市立古里中学校第2学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	数と式	78.0	74.6
	図形	85.9	82.2
	数量関係	77.0	72.8
観点別	数学的な見方や考え方	64.2	58.1
	数学的な表現・処理	80.1	76.8
	数量、図形などについての知識・理解	87.4	84.3



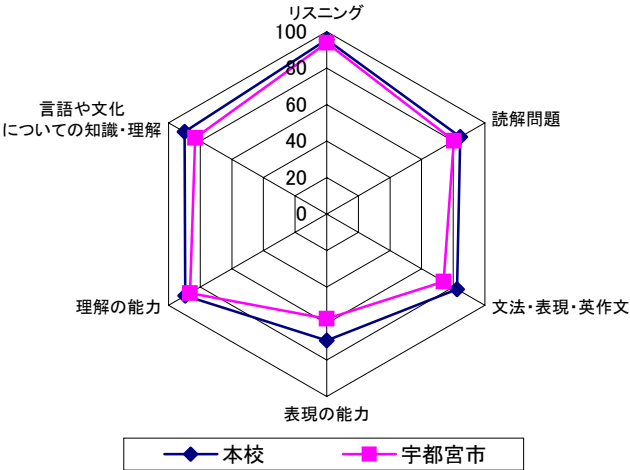
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式 (78.0%)	正答率は宇都宮市の平均より3.4%高い。基本に関する部分はおおむね良好である。設問ごとに見ていくと、多項式の計算、比の性質が宇都宮市の平均を下回っている。全体的には文字式の値、文字式の利用、連立方程式の利用についての正答率がやや低い。	基礎基本の定着を図るために、反復練習に力をいれる。計算問題だけでなく、文字式の値、比の性質など1・2年生の復習全般を授業の中で取り入れていきたい。
図形 (85.9%)	正答率は宇都宮市の平均より3.7%高い。各設問ごとにみても、すべての設問において宇都宮市の平均を上回っている。平行線と角については授業でも興味関心が高く、正答率が約9割であるのに対し、三角形の合同に関する問題の正答率は8割に届いていない。	じっくり時間をかけて、論理的に考えていくことの大切さを指導していく必要がある。グループ学習で、考えることの大切さ、楽しさを味あわせていきたい。
数量関係 (77.0%)	正答率は宇都宮市の平均より4.2%高い。各設問ごとにみても、すべての設問において宇都宮市の平均を上回っているが、一次関数に関しては、全体的に正答率が低い。一次関数への苦手意識を持つ多くみられる。	比例・反比例・一次関数の基本事項を徹底的に復習させる。式の求め方、グラフの書き方などを繰り返し行い、定着を図り、数学的な見方や考え方を伸長するべく、高度な課題へも挑戦させたい。

宇都宮市立古里中学校第2学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	リスニング	95.6	93.8
	読解問題	84.4	80.4
	文法・表現・英作文	82.4	73.9
観点別	表現の能力	69.3	57.4
	理解の能力	89.5	86.5
	言語や文化についての知識・理解	90.0	83.3



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
リスニング (95.6%)	宇都宮市の正答率を1.9%上回っている。通常授業ではClassroom Englishの使用や本文の内容についてのT-Ftest、Q&Aを行っている。ALTとのTeam Teachingではインタビュー活動等を行っている。	設問によっては市の平均を若干下回っているものがある。実際の運用場面を想定しての活動や、聞き取りのポイントを絞ったリスニング活動を行い向上を目指したい。
読解問題 (84.4%)	宇都宮市の正答率を4%上回っている。授業では本文の要点をまとめたり、指示語の内容を確認したりする活動を行っている。	対話文の読み取りの設問で市の平均を若干下回っているものがある。対話文に数多く触れさせたり、インタビュー活動を通して実際の対話を繰り返し練習させたりして向上を図りたい。
文法・表現・英作文 (82.4%)	宇都宮市の正答率を8.5%上回っている。単語や基本文の小テスト、問題練習、発展的な英作文等を行っている。	設問ごとに見ても市の平均を下回っているのはほとんどない。話したことを書く、聞いたことを書く、読み取ったことを書くなど技能間のつながりを考えた活動を増やして向上を図りたい。